

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、13～19℃台を示し、やや高め～かなり高めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——シケの日が多く出漁日数が少なかった。西彼地区では、マアジなどが1日1統当たり25トンの水揚げで、前週の2.8倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、マサバなどが1日1統当たり1トンの水揚げで、前週の50%（前年を下回った）。北松南部地区では、カタクチイワシなどが1日1統当たり11トンの水揚げで、前週の69%（前年並み）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり110kgの水揚げで、前週の1.9倍（前年を上回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり2.6トンの水揚げで、前週の1.9倍（前年を上回った）。
- 定置網——五島魚目地区では、ブリなどが1日1統当たり297kgの水揚げ。北松生月地区では、マアジなどが1日1統当たり461kgの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり19kgの水揚げ。対馬東岸地区では、スルメイカなどが1日1統当たり181kgの水揚げ。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（1/25～29の5日間）沖合イカ釣り船、船凍船は隠岐諸島北側及び八戸沖に出漁するも時化で入港中。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐諸島周辺～能登半島～佐渡沖～酒田沖に出漁。

鳥取県西部（沖合船）2日延8隻、総計391箱、1航海最高90箱、平均49箱。

スルメイカ（20～30入）349箱、ケンサキイカ（20～25入）42箱の混獲となった。今期も山口沖～隠岐諸島周辺～鳥取県東部にかけてスルメイカとヤリイカの漁場が形成されたが、時化のため出漁日数が少なかった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第2-4号 五島灘・五島西沖の観測結果」を長崎県庁ホームページに掲載しています。長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」から漁海況週報や漁海況通信をご覧ください。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>